

高百俵三人扶持

源姓

家紋
丸之内一文字桔梗、半分五七桐

植村出羽守家政伯父新左衛門政氏長男遠江国住人清兵衛政久惣領

植村新三郎

政明

政明祖父新左衛門政氏事元龜年中

東照宮へ御出馬の時敵と絶戦深手

負腰立す俸清兵衛政久介抱して

遠州見付にて引退養生す濱松へ

御帰陣のとき甲州勢高天神より追懸しかは右新三郎父清兵衛宅へ火を

掛其上駅中三所に火を懸道を塞甲州勢脇道より押懸んとせしより

道難所なれば遅す其間天竜川船渡場にて見付宿はつれより清兵衛御

案内して天竜川を恙なく渡し奉り御跡のことは船場の者に命して水松に

せしなり

東照宮天龍川より半道餘西橋羽村妙

恩寺に入らせられ其節清兵衛寺の

縁先へ召され成高の御刀を賜○御出馬の

とき毎度供奉清兵衛宅へ御立寄御腰

掛させられしかは其居屋敷酒役御免の

御朱印を賜酒役御免の訳は清兵衛

大酒をたへしに其頃売酒なく不自由故

手酒造り所持せしに

東照宮御出馬御途中にて手製酒を

献り御近習へも茶碗をもてすすめしに

より酒役御免の御朱印下さるる也清兵衛

常に冷酒を好ゆへ字をひやざげゝと

御呼遊されしかは国中の人々みなひやざ

けと名を覚えし也

○新三郎政明は

東照宮へ奉仕采地千石○駿府へ供奉

頓死せしかは家絶しかるに妾に胎妊の

ものあり勢州飯高郡大津村に出生すこれ政茂なり政明は遠州見付

宿省光寺葬

政茂

植村新右衛門

伊勢国飯高郡大津村郷士にて寛永

十酉年六月廿九日死回国垣鼻村真粟

寺葬

政云

植村四茂太夫

大津村郷士宝永元 年九月廿七日

死七拾九歳葬地同上

政泰

植村山三郎

大津村郷士享保六 丑年閏七月十二日

死七拾五歳葬地同上

政勝

植村左平次

初紀伊殿に仕へ享保元 甲年御本丸へ

有徳院殿御供○同年七月廿八日奥御庭

方廣米拾三俵老人扶持御役扶持半扶

持奥御庭役藪田助八下役○同二 酉年

十二月より褒銀五拾目つつ年々拝領○

同五子年野州日光人参見分○同

年同断御用○同年九月十三日駒場御用

屋敷内へ御菓園一万坪出来右御菓園

預○同年十二月より御救金五兩つつ○

同六 丑年山城近江美濃飛騨信濃若

狭丹波丹後但馬九か国菓草御用○同

七年陸奥出羽常陸三か国菓草御用○

同七寅年武蔵相模駿河甲斐四か国

菓草御用○同八 卯年下総常陸安房

相模伊豆甲斐六か国菓草御用○同年

十 月甲州へ菓草御用○同九辰年甲州へ

菓草御用隠密御用兼○同年武州近

在菓草御用隠密兼○同年同断○

同十巳年野州日光人参御用○同年

九 月武州近在隠密御用○同年同上○同十

巳年野州日光人参御用○同年武州

近在隠密御用○同十一 午年伊豆駿

河内国菓草御用○同年伊賀伊勢大和

紀伊四か国御用○同十二 未年相州箱根菓

草御用○同年伊賀伊勢紀伊大和菓

草御用○同年八月廿九日武州秩父郡多

摩郡菓草御用○同年十二月廿一日御足

米拾七俵老人扶持合せて三拾俵式人扶

持に成され伊賀格○同月廿五日御足高

被下置候得は御足金杯は不被下候得共

御目鏡にて被仰付候左平次儀故前々

之通御救金毎暮可被下旨申渡金五

両つつ被下候○同十三 申年淡路阿波讃

岐伊予土佐五ヶ国菓草御用相兼見分

并往還道筋和泉摂津京都鷹峯

御菓園御用紀州熊野山中夫ゝ駿府

御菓園見分御用右御用日敷之内勢州飯

高郡大津村に罷在候母方へ可立寄旨

三日御暇被下○同十四 酉年山城大和河内

伊賀伊勢紀伊六か国菓草御用○同年

九月武州児玉郡菓草御用○同十五 戌年

武州近在菓草御用○同年武蔵上野

下野信濃甲斐駿河菓草御用○同十六

亥年四月尾張美濃飛騨信濃越中

越後菓草御用○同年八月武州近在菓

草御用○同十七子年伊勢美濃若狭越

前紀伊菓草御用右日敷之内勢州大津

村母方へ可立寄て五日御暇○同年七月

武州近在菓草御用○同十八 丑年八月

武州近在茜御用○同年十二月日光人

参御用○同十九 寅年大和伊賀伊勢

志摩遠江菓草御用且又伊勢大津

村母大病煩候^一付可立寄旨^二之五日御暇

其節母^三可用旨一粒金丹百粒拝領○

同年七月武州近在菓草御用○同月

十七日下総葛西邊小金筋菓草御用

隠密兼○同年八月武州近在茜御用

○同廿卯年閏三月大和伊勢志摩三河

伊豫菓草御用隠密兼^四駿府御菓園

見分○同年八月武州野州菓草御用

○同年九月近在菓草御用○同廿一 辰年

日光山へ御放之唐船持渡り尾長雉子見分

并同国高原山宇都宮領山々夫ゝ越後

陸奥国境山々見分○同年^五近在菓草

御用○同年武州近在ひさらき御用○同

年八月近在茜御用○同年十月日光山

カタクリ御用○同年十一月吹上御庭^三御植

有之大竹御買上御用夫ゝ日光山人参

武州児玉郡河内村人参御用○元文二

巳年二月紀伊殿へ進候御菓草御用^三付

駿府へ相越夫ゝ伊豆初崎^五御放尾長雉

子見分○同年四月近在きさらき御用

○同年七月武州河内村人参野州日光

人参御用夫ゝ結城郡吉田村埋金之

場所見分○同年八月廿六日武州近在

茜御用○同年十月武州近在相州鎌

倉茜ひさらき御用且武州多摩郡

宮下村にある相生松見分○同年閏

十一月朔日御休息御庭^六戸番並被仰付

加秩拾七俵足米式拾俵合五拾俵式人扶

持○同三 午年宮下村相生松見分^七苗

御用○同年三月十五日近在ひさらき御

用○同年六月武州野州人参見分○

同年八月近在茜御用○同年九月駿

府久能御菓園取締御用○同年十一月

十八日武州足立郡芝村三俣竹吹上^五

御植付御用○同四年三月武州児

玉郡小平村春貞寺^三有之五色梅

見分并菓草見分○同年五月廿七日

相州大山丹澤山菓草見分○同年

八月上州赤城山見分夫ゝ野州日光人参

植場見分○同五 申年相模駿河菓草

御用○同月十五日近在菓草御用○同六月

同上○同閏七月十日近在茜御用○同八月

十八日日光人参御用兼隠密○同年十月

武州河内村人参御用隠密兼○同六 酉年

近在菓草御用隠密兼○同年二月七日

近在御用○同年三月十八日箱根山御放

尾長雉子見分○同年日光人参御用

○同八月日光并武州河内村人参御用○

同年九月十四日近在ひさらき御用○同年

十二月廿一日褒賞○寛保二 戌年近在

菓草御用○同年四月野州那須山見分

夫ゝ奥州会津菓草御用隠密兼○同

年武蔵下総常陸上野下野大水之場

所隠密○同月近在菓草御用○同年

十二月十二日御足高式拾俵老人扶持加秩に賜

其上加増老人扶持合五拾俵三人扶持添番

並勤方唯今之通○同月廿日在御用勤候

^二付褒金拾両○同三 亥年伊勢近江

并濃州国境菓草御用日敷五日御暇被下

母方へ立寄○同年近在菓草御用○

同年十二月褒金拾両以後年々○延享

元 子年近在菓草御用○同年四月

日光人参御用○同年七月日光人参御用

○同八月駿府御菓園御用○同二 丑年

五月日光菓草御用○同八月駿府菓園

御用○同月日光人参御用○同年九月三日

武蔵野砂種植場見分同年閏十二月

十二日西丸より金五兩○同三 寅年五月

日光人参御用○同年八月武州近在

相州鎌倉郡茜御用○同四 卯年四月

日光菓草御用同年駿府御菓園御用

○同六月日光菓草御用○延享五 辰

年四月駿府五月日光御用○寛延

二 巳年日光人参御用俸左源次為見習同道

駿府御菓園御用同断○同年近在ひ

さらき茜御用左源次同道○同年十二月

廿四日吹上漆奉行加秩五拾俵○同三 午

年五月廿一日

有徳院殿為御用日光^三罷越御暇銀十五枚

俸同道○同年十二月十一日御役金格褒

金五両賜後年々賜○同月十六日

大納言殿より銀式枚○宝暦二 申年四

月八日光御用○同三 酉年八月廿三日

同上在々御用掃府之節度々産物献上

日光御宮奥廓に拝礼○

有徳院殿駒場原 御成之節左平次御

場所へ不罷出候処左平次は如何いたし

不罷出候哉之旨小笠原石見守^五御尋

被遊已来目黒筋 御成之節は御供に

可罷出旨 上意を蒙り夫ゝ右之場^五

御成之節は御供仕御場所又は御膳所にて

御酒御菓子頂戴於 御目通度々頂戴

御預御場所^五被為入候節は御先立仕

毎度蒙 上意諸国山中之事杯御尋

御直に御答申上候

惇信院殿

凌明院殿 御成之節も右同様初御尋等も

有之候○宝暦四 戌年七月十七日病免

○明和元 申年十一月十六日致仕剃髮

新甫と改称○安永六 酉年正月八日死

八十三歳武州荏原郡北澤村森巖寺

葬

○政勝諸国巡行仕候所々内珍敷事

斗編集仕可奉備上覧旨

有徳院殿仰を達り諸州採葉記抄

録と申書物著述仕奉備 上覧

惇信院殿へも上覧に入奉る○

有徳院殿御手自煤竹色麻布の御羽

織一ツ拝領○享保一 十 卯年二月十五日

有徳院殿より唐草染付御蓋物一ツ拝領

○勢州大津村に在候政勝母元文五年

十二月廿八日松坂八幡宮へ夜五時参詣

掃之節松坂愛宕町橋際にて神農之

掛物を拾ひ候処左平次菓草御用勤候

事故不思議と存差下候^二付着岸之時

小笠原石見守へ差出候処

有徳院殿へ上覧に備奉り石見守より

書付相添差戻今に所持

以下略

（下段に続く）